

2025.9 Vol.122

ふれあい 茨城

CONTENTS

1

協会事業

茨城県留学生親善大使任命式を行いました

2-3

GLOBAL VIEW

エスニック・コミュニティに聞きました

4-5

交流の広場

わが町の外国人リーダー
しもつまグローバルフェスティバルの開催
YOUNG EYES/ACROSS CULTURE

6

地球だより

中米・グアテマラでの学習支援

県だより

外国籍人材を活用したダイバーシティ教育に取り組んでいます

7

for you...

お知らせ

8

Said & Did



茨城県留学生親善大使・いばらき応援大使 任命式

茨城県留学生親善大使任命式を行いました

茨城県国際交流協会では、国際交流に意欲ある県内留学生を「茨城県留学生親善大使」として任命し、大使が当協会事業等に参加することで、地域との交流、茨城県の魅力を知る機会を提供しています。キャンパス内では得られない体験、茨城県自体に愛着を持ってもらうことを目指しています。

6月29日(日)に任命式を行い、今年度新たに56名を任命しました。以前からの活動者とともに、総勢21の国と地域94名が親善大使として活動します。またこれに合わせ、『(公財)中島記念国際交流財団助成』(独)日本学生支援機構留学生地域交流事業を活用し、茨城県での交流活動に意欲のある都内在住の留学生12カ国17名を「いばらき応援大使」として任命しました。

任命された大使は「親善大使の活動を通して、茨城県の皆さんや他の留学生と交流を深め、自国の文化や魅力を楽しく紹介したい」「茨城県の自然・歴史・文化・食を自ら体験し、その魅力を多くの人に伝えていきたい」など抱負を語ってくれました。

留学生親善大使やいばらき応援大使、各国事情紹介講師を学校や生涯学習の場に迎えて交流しませんか。ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業について詳しくは以下QRコードから。



「ワールドキャラバン
国際理解教育講師等
派遣事業」QRコード



任命証の授与



交流会





GLOBAL VIEW

特集

エスニック・コミュニティに聞きました

海外ルーツの宗教施設、エスニックフードの飲食・食材店は、日本とは違う言葉や雰囲気のため不慣れな方もいらっしゃると思います。当協会ではこれまで、エスニック・コミュニティから「日本人、地域の人にも知ってほしい」、「地域社会とつながりたい」といった声を聞きました。そういった思いを地域社会に伝え、相互理解のきっかけになればと思います。いくつかの施設にて直接インタビューした内容をまとめました。



インド シク(シーク)教

名称：グルドワラ ダシュ メーシュ ダルバール
(Guru Dawara Dashmesh Darwar)

場 所 猿島郡境町412-2
連絡先 電話090-2753-4085(担当：グル ビンダル シング)、
090-2757-5565(担当：アルヴィンダー シン)
情 報 メッセージングアプリWhatsAppグループ



2021年2月に設立しました。礼拝場所ではありませんが、「コミュニティセンター」としてインド人が集まり、日本で知っておくべき生活ルールなどを含めた情報交換の場にしたいという思いでつくりました。インド人の孤立を防ぎ、犯罪のきっかけともなる困窮状態に陥ることを防ぎたいです。なお、国籍、宗教の区別なく人々を受け入れています。



第1、3日曜が礼拝日です。また、シク教徒以外に、イスラム教、ヒンズー教の人々も来ます。新年などのお祭りイベントを年に数回開催します。イベントには関東一円から人が集まります。



施設はいつでも開いており、24時間誰かいます。(※祭壇は毎日20時に片づけます) 誰にでも開かれている場所なので、日本人はもちろん興味ある人は来てください。建物に入る際、頭髪は覆い、肌の露出は控えめにしてください。酒・タバコ・肉は持ち込めません。来る前に事前に連絡をいただければスムーズです。

みなさんへ

日本人とのふれあいをしたいです。お祭りの時などにお越しください。

ひとくちメモ

シク教はインド北西部からパキスタン北東部のパンジャブ地方で15世紀頃ナーナクという人が開いた一神教です。人類平等、カーストもありません。聖職者はおらず、偶像崇拝もせず、聖典を崇め祭壇に置いて礼拝します。礼拝では「キールタン」と呼ばれる賛歌を、ハーモニウム(リード・オルガン)とタブラ(太鼓)の伴奏で歌います。食はベジタリアンで、酒、タバコは禁止。頭髪は男性はターバン、女性はスカーフなどで覆います。宗教上の教義「神が与えた神聖な身体には手を加えない」のもと髪は切らずに整えるそうです。

日常生活では「仕事に就き一生懸命働くことを重んじる」教えがあります。また、「ランガル」という慣習があります。パンジャブ語で「無料で食事を提供する」という意味で、寺では寄付とボランティア給仕により食事が無償提供されます。性別・民族・国籍・社会的身分・肌の色等関係無く一緒に食事をしますが、「すべての人は平等」という教義の実践の場とも言えます。



インドネシア レストランと併設の マスジド(イスラム教礼拝施設)

名称：パダン(PADANG/Masjid Nur Alam併設)

場 所 常総市大房75-1
連絡先 0297-21-5509(レストランは火曜定休)
情報 インスタグラム https://www.instagram.com/padang_hrm/
@padding_hrm



2025年2月、同じ常総市内で10年以上営んでいたカフェから現在地に移転しました。準備に1年以上かけ、移転後はより広くモダンでおしゃれな店内にし、食材売り場を併設しました。日本人に受け入れてもらえる雰囲気を考えました。なお、敷地内の別棟にイスラム教礼拝施設のマスジドを開設しています。



マスジドは使用していますが、完成とするまでもう少し手を入れたいので、現時点でまだ公表していません。イスラム教では基本的に男女は別々にお祈りします。また、男性は集団礼拝が推奨されています。金曜の昼にインドネシア、パキスタン、バングラデシュ、フィリピンなどの男性が礼拝に使用しています。なお、マスジドは2階建てで男女は階を分けて同時にお祈りできます。24時間使用できる状態です。



インドネシア・コミュニティとして、頑張り屋や明るい性格のインドネシア人などが多く集まります。インドネシア大使館関係者が訪れることもあります。

みなさんへ

インドネシアの料理店が地域に受け入れられるか最初は心配もありました。日本人に馴染みやすいインテリア・デザインとするなど工夫しました。今は地域の皆さんにすんなりと受け入れられていると感じます。県外から食べに来るお客さんもいます。日本でインドネシア料理の知名度が高まるように頑張ります。将来の夢はお店を増やすことです。

マスジドについては、インドネシア人に限らずイスラム教の人がお祈り場所に困ったとき気軽に立ち寄ってもらえる場、さらには交流の場になればと思っています。



ひとくちメモ

常総市の国籍・地域別外国人数の状況

コロナ禍を経て外国人数全体は増加しましたが、国籍別人数の上位5か国に変化がみられました。2020年と2024年を比較すると、国籍別人数第1位のブラジル人は減少し、ベトナム人とインドネシア人が増加しました。また、中国人は上位5か国の圏外となった一方、新たにスリランカ人が圏外から4位に入りました。



在留外国人統計から作成(各年12月末のデータ)

茨城県の在留外国人の推移(県人口との比較)

(外国人：各年12月末、日本人：各年の翌年1月1日)



出典：在留外国人統計、茨城県常住人口(茨城県)



インド ヒンズー教

名称: **スリーラム インド コミュニティー センター 宗道**
(Shree Ram Indian Community Center Sodo)



場 所 下妻市宗道177-2
連絡先 080-5010-2266(担当: セン)
情 報 メッセージングアプリ
WhatsAppグループ



2020年4月に設立しました。日本人、外国人関係なくシェルター的な場所を作りたいと思いました。“コミュニティセンター”としてみんなが集まれる場所にしたいです。力を合わせ世界平和を目指しましょう。インド人に「困り事が相談できる」と伝えても誰も来ませんので、寺院として人が集まりやすくなりました。災害時などは寝食の場として提供可能です。地域の日本人に是非来てほしいです。

「極度の貧困のためわが子を殺してしまった」という痛ましいニュースを日本で聞いたことがあります。誰にとっても子どもはかけがえのない宝物。そうなる前に、食材は無償提供できるので、是非ここに来て子どもに食事を食べさせてほしいと願います。(なお、宗教上、食事は100%菜食で、肉や魚は持ち込めません。)

毎週日曜に礼拝をしますが、施設は24時間開いており、来たいときに来て短時間礼拝することも可能です。月1回程度イベントを開催します。新年など大きなイベントとなると、遠方から計1,000人くらい人が集まります。国籍はインドだけでなく、ネパールなど様々です。中には夜に行う宗教行事があり、近隣への騒音に気をつけていますが、日本の伝統行事と開催時期や感覚が違いますので、近隣住民に迷惑になっていないかととても気をもむことがあります。

国籍・宗教不問、誰でも入れます。コミュニティセンターなのでイベントに無料で利用できます。(例: 結婚式、誕生会) 週末・祝日など、集会に参加しなくてもお茶などどうぞ。なお、酒やタバコは持ち込めません。



みなさんへ

外国人の中には日本の生活マナーやしきたり、交通安全ルールなどが良くわかっていない人がいます。正しい情報をコミュニティ内で共有できるように、例えば、行政や地域の関係者などに来ていただき、説明してもらえるとありがたいです。広い駐車場があるので、交通安全教室を開いたり、近隣の子どもの遊び場や地区イベント用に開放もできます。是非足をお運びください。



スリランカ 仏教

名称: **スリ サンブッダローカ寺**
(讃仏陀樓迦寺 / Sri Sambuddhaloka Vihara)

場 所 つくば市手子生1000
連絡先 090-1888-9393、029-879-9393(担当: ダンマローカ長老)
情 報 FB有
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100068105347401#>



2010年10月に設立しました。背景として1984年に日本初のスリランカ・デルワール仏教の寺ーランカ(蘭華)寺が千葉県佐原市に建立されました。2か所目の寺を市の知名度が高く、人も集まりやすいつくば市に建てることになり、この寺ができました。スリランカ仏教は上座部仏教で、お釈迦様の教えをひろめています。

スリランカ仏教といっても、スリランカ人のためだけではありません。世界の人々の幸せ、日本のために日々祈りをささげています。2011年の東日本大震災では陸前高田市に行き被災地支援を行いました。スリランカ人はほとんどいない地域でしたが、約3,500人分のスリランカカレーを作り避難所に運びました。今年の7月30日にカムチャツカ巨大地震が発生した際には、日本のために安寧を願って8月10日から毎日読経しています。スリランカから新たに2名のお坊さんが来ますので、交代で24時間連続で計10万回に達する読経をする予定です。その様子はYouTubeでライブ配信します。

朝夕お祈りをしていますが、日曜は人が集まります。国籍は様々です。また、毎月満月の日にちなんでもイベントを開催しています。10月中旬には雨安居(うあんご)明けにお坊さんに法衣を献上する“カティナ”祭という大きな儀式を予定しています。



みなさんへ

近隣の皆さんに駐車場の融通などご理解とご協力を得てお寺の活動が成り立っています。

お釈迦様はスリランカ人ではないし、シンハラ語で説法をしたわけではないからこそ、仏教の教えを人間の歩く道とし、日本そして世界の皆さんが元気で過ごせること、平和を願って毎日祈っています。



タイ 仏教

名称: **一般社団法人 ワット パ アピプンヨー寺院つくば**
(Wat Pa Apipunyo Tsukuba)

場 所 筑西市木戸1293-2
連絡先 0296-38-2220(昼12時まで。なるべく週末にご連絡ください。担当: プイ)
情 報 FB <https://www.facebook.com/profile.php?id=61556333716054>



2024年1月に設立しました。筑西市、結城市、栃木県小山市などの周辺地域は以前からタイ人が比較的多く住み、コミュニティがあります。在住者の希望にこたえるかたちではじめました。

毎日朝6〜7時、夜7〜9時にお祈りをしています。日曜日に多くの方が集まります。ガティン祭、ソングランなど大きなイベントが年3回程あります。イベント時は多い時で約300人が集まります。9割がタイ人です。他県から来る人もいます。

タイ・コミュニティ向けに、フェイスブック、グループLINEなどで情報発信をしています。東京にあるタイ大使館にもお知らせを流しています。



みなさんへ

日本人はもちろん国籍を問わずオープンなお寺です。お祭りの時はタイ人はとても賑やかに過ごします。日本人からみるとあまりの盛大さにちょっとびっくりするかもしれないので、心の準備をして来てください。

※現在は建物の工事などを行っています。完成してから来ていただけるとありがたいです。

国籍・地域別上位10か国

国・地域	人数(人)	対前年増減率(%)	宗教の例
1 ベトナム	20,287	11.7	仏教、キリスト教など
2 中国	12,959	5.0	仏教など
3 フィリピン	12,037	5.4	キリスト教など
4 インドネシア	10,529	25.9	イスラム教など
5 ブラジル	5,908	△4.5	キリスト教など
6 スリランカ	5,682	40.3	仏教など
7 タイ	5,607	3.8	仏教など
8 ネパール	4,080	52.2	ヒンズー教など
9 韓国	4,015	△0.6	仏教、キリスト教など
10 パキスタン	3,440	24.1	イスラム教など

出典: 数値は在留外国人統計(2024年12月末)

今回、外国人集住地域である県西地域から、国籍・地域別人数で上位に位置し増加率も高い国、及び関連する宗教を念頭に(インドネシア、スリランカ、ネパール(ヒンズー教として))、当協会が複数回訪問したことがある施設を中心に取材しました。改めてお話を伺うと、母国人の宗教心や心のよりどころとしてのみならず、コミュニティセンター機能や、日本と世界の平和を祈っていることなど、見た目だけではわからない活動が印象に残りました。このほかにも県内には様々な宗教施設や店、エスニック・コミュニティがあります。その多くは地域に扉を開いており、私たちを温かく迎えてくれると思います。

なお、取材した箇所は自家用車であれば1日で回ることが可能な距離圏です。パスポートがなくても、飛行機に乗らなくても、海外旅行でその国の文化・習慣に触れたような体験ができます。ポイントは、そういった方々がこの茨城で住民として生活している点です。言葉・文化・こころの違いはありますが、茨城の多様性のひとつととらえ、地域づくりや災害時の共助にどうつなげていくか?考えることが大切ではないでしょうか。



わが町の外国人リーダー

Christopher James Wood クリストファー・ジェームス・ウッド (出身国:イギリス / 在住歴:22年)

茨城県北地域おこし協力隊(茨城県委嘱/国内外旅行者向け宿泊施設を核とした県北地域へのインバウンド誘客)、ユースホステル経営、IBARAKIネイティブコミュニケーションサポーター

クリスさんを紹介いたします

なぜ北茨城に?という疑問はありました。ここにずっと住む我々には当たり前の自然あふれる田舎暮らしが、海外の方々には魅力に感じる。そこにずっとあった価値に光を当ててくれたクリスさん。いわゆる観光スポットを推してきた私たちの観光行政にとっては目からウロコでした。「北茨城はホントにいいところ。やりたいことがいっぱいある!」「いろんな人が助けてくれる、僕は本当にラッキーだ。」と次々とアイデアを出しながら北茨城の情報を集め、ツアーガイド、ゲストハウスオーナーとして積極的に挑戦する姿が周りの人の心を動かしているのだと思います。クリスさんのお宅を訪ねると、気さくなスタッフとたくさん動物たちが迎えてくれ、賑やかでアットホームな雰囲気です。日本国内のみならず様々な国からの観光客がクリスさんを慕って、ここ北茨城にやってくるというのも彼の人柄を見れば納得です。世界中をそして日本中を旅したクリスさんが選んでくれた北茨城。インバウンド行政の旗振り役として活躍するクリスさんの支えとなるよう我々も協力を惜しみません。魅力いっぱいの「素朴な北茨城」をクリスさんと一緒に発信していきたいです。

北茨城市 環境産業部 商工観光課 小川 桜

クリスさんにお聞きしました

活動の様子、よかったことや感じたことなどを教えてください。

北茨城市でゲストハウス「ELM ON THE BEACH」を経営しながら、地域活性化や国際交流の活動に取り組んでいます。これまでに、空き家を活用した宿泊施設の整備や、外国人旅行者向けの受け入れ拡充を進め、北茨城市に訪れる外国人観光客を大きく増やすことができました。活動のきっかけは、「豊かな自然や文化に恵まれた北茨城の魅力を、もっと多くの人に知ってほしい」という思いからでした。ユースホステルの経営だけでなく、地元の方々と協力しながら畑や鶏舎、ドッグランなどを整備し、宿泊者が地域の暮らしを体験できるよう工夫しています。また、英会話の先生やアドバイザーとして、子どもから大人まで多くの方と関わり、国際的な交流の機会を広げてきました。さらに、「地域おこし協力隊」の一員として、観光資源を活かした体験型プログラムの企画や、ローカルガイドの育成にも取り組んでいます。例えば農業体験や陶芸、海でのアクティビティなどを通じて、北茨城ならではの魅力を国内外に発信

しています。こうした活動を通じて、外国人住民も地域の一員として貢献できることを実感しています。北茨城で暮らす魅力は、人の温かさと豊かな自然にあります。地域で生活する外国人の皆さんには、ぜひ一歩足を踏み出して地域に関わってみてほしいと思います。小さな交流が大きな絆につながり、地域と世界を結ぶ架け橋になると私は信じています。これからも地元の皆さんと力を合わせて、茨城の魅力を世界に発信していきたいです。

地域で生活している外国人の方々へのメッセージ

ゲストハウス「ELM ON THE BEACH」は、宿泊だけでなく、ボランティア活動などを通じて地域や日本の魅力を感じられる場所でもあります。地域で生活されている外国の方にも、牧場、温泉、神社、ファーム、陶芸など近隣の皆様と様々な活動を通して、旅行者と地域の方が自然に交流できる空間を提供しています。地域や国境を超えて、一緒に茨城の魅力を発信できればうれしいです!

公式HP www.elmonthebeach.com
Instagram <https://www.instagram.com/elmonthebeach/>



しもつまグローバルフェスティバルの開催

一般社団法人 下妻青年会議所
2025年度 まちづくり委員会 委員長
須藤 晃



(一社)下妻青年会議所は、下妻市、八千代町、常総市(旧石下町)の20歳から40歳までの青年が集まり、地域の発展と次世代育成を目的に活動している団体です。6月1日(日)に砂沼広域公園内観桜苑を会場に開催した「しもつまグローバルフェスティバル」は、地域に住む外国人住民の増加を背景に、多文化共生の推進と地域の魅力発信を目的として企画しました。

当日は、各国の料理ブースや伝統舞踊、地元の伝統芸能、子ども向け体験コーナーなどが行われ、多くの来場者で賑わいました。日本人住民だけでなく、企業に雇用されている外国人労働者やその家族も多数参加し、言葉や文化の壁を越えた交流が生まれました。来場した日本人からは「食べ物や音楽を通じ、多文化交流ができた」との声が多く寄せられ、相互理解を深めるきっかけとなりました。

また、地域企業で就労している外国人の方々にも積極的に関わっていただき、当日の笑顔あふれる光景を目の当たりにできたことが大きな喜びでした。さらには、文化の違いを尊重し合えば、地域の絆がより強くなることを実感しました。

今後はイベントに限らず、日常的な交流機会の創出や、地域課題を共に考える場をつくるなど、青年会議所ならではのネットワークと行動力を活かし、多文化共生の地域づくりに継続して取り組んでいきたいと考えています。





YOUNG EYES

スピーチを通じて広がった世界

茨城県立竹園高等学校 2年 池田 莉子



私は8月6日、全国国際教育研究大会の高校生英語弁論大会に出場しました。スピーチのテーマは「発展途上国に限らず、貧しい思いをしている子どもたちを効果的に支援する」というもので、現地の子どもたちが本当に欲しいものは何かを真剣に考えることを呼びかけました。

このテーマを選んだきっかけは、スリランカで教師をしている知人の話を聞き、現地の人と直接メッセージのやり取りをする中で、現地の人々が本当に欲しているものや、その国の現状を知らずにモノを寄付をしてしまうと、寄付が無駄になったり効果が薄れてしまうことがあると知ったことです。現地の方から「子どもたちに笑顔を与えるものがほしい」という声を聞き、子どもたちがおもちゃで遊ぶことを通して身につける創造性や協調性、譲り合いの大切さこそが、彼らの成長に欠かせないと感じました。

全国大会の舞台では、英語力だけでなく、自分の思いをどう伝えるかの難しさを痛感しました。同時に、日本や世界の子どもたちの現状を知ってもらうためには、スピーチに感情を含め、自分の思いが相手に伝わるよう工夫して関心を持ってもらうことが大切だと学びました。大きな舞台で話す緊張感の中、聞いてくれた人々が真剣な眼差しでうなずいてくれた瞬間、私の思いが届いたと実感しました。

この経験から、寄付による支援はモノを送るだけでなく、相手の気持ちや文化を知ることにつながると学びました。今後も世界の人と直接つながりながら、小さな一歩を積み重ねていきたいです。

ACROSS CULTURE

ここが違って面白い！

セルワン アブデルハカム モハメド アブドゥ ハッサン

筑波大学大学院生命地球科学研究群（後期博士課程）
生物学学位プログラム



エジプトの偉大なピラミッドの前で

私はエジプト出身で、現在、筑波大学の博士課程に在籍し、植物生理学を専攻しています。母国では大学で助手（講師補佐）として勤務しており、さらなる専門性を高めるために来日しました。筑波大学を選んだ理由は、その国際性と高い研究レベルに魅力を感じたからです。

日本を訪れるのは今回が二度目です。以前、東京大学で6ヶ月間研究生として滞在した経験があり、その際に日本の自然の美しさ、整った生活環境、そして礼儀や秩序を大切にする文化に深い感銘を受けました。特に、日本は女性が一人でも安心して生活できる安全な社会であると実感しました。また、科学研究においても設備や環境が整っており、集中して研究に取り組める点が素晴らしいと感じています。

エジプトと日本の文化にはさまざまな違いがあります。例えば、日本には着物のような伝統衣装がありますが、エジプトにはそうした習慣はあまりありません。また、日本ではお箸を使いますが、エジプトでは主にスプーンやフォークを使います。さらに、日本では時間厳守が徹底されており、公共交通機関の正確さや、電車内でのマナー（例えば通話を控えること）なども印象的です。エジプトではこれらの点が比較的緩やかで、文化の違いを日々実感しています。

私の今後の目標は、博士課程を無事に修了し、人々の役に立つような価値ある研究を世界に発信することです。そして、大学や研究機関でキャリアを築き、科学の発展に貢献していきたいと考えています。

また、私は現在、「茨城県留学生親善大使」として活動しており、エジプトと日本の文化交流の橋渡し役を務めています。将来的にも、両国の相互理解と友好を深めるための活動を、さまざまな形で継続していきたいと思っています。



ルクソールのカルナック神殿

地球だより

News from the earth

中米・グアテマラでの学習支援

JICA海外協力隊 2024年1次隊 グアテマラ 小学校教育 加治 直弥

私は現在、中米はグアテマラの教育委員会に所属し、市内の小学校を巡回しながら授業支援を行っています。

グアテマラと聞いて、「コーヒー」を思い浮かべる方が多いと思います。赤道に近い国でありながら標高が高く、寒暖差が大きいため、高品質なコーヒーの産地として知られており、日本への輸出も盛んです。また、人口の多くはマヤ系先住民で、伝統衣装「ウィピル」をまとい、地域によっては今もマヤの儀式が受け継がれています。ティカル遺跡や旧都アンティグアといった世界遺産もあり、歴史と文化が息づく国です。

公用語はスペイン語ですが、特に山間部ではマヤ言語を第一言語とする人々も多くいます。主食はとうもろこしで、トルティーヤが毎食食卓に並びます。七面鳥料理もよく食べられます。季節は乾季と雨季に分かれ、雨季には夕方に激しいスコールが降る日が続きますが、乾季には数か月間まったく雨が降らないこともあります。

一方、教育面では多くの課題があり、特に算数の基礎が十分に定着していない子どもたちが多く見られます。私の活動では、授業の実践や補助を通して先生方と協力し、子どもたちの学びを支えています。小学校卒業後すぐに働く子どもも少なくない中、四則演算や生活に根ざした思考力の育成は非常に重要だと実感しています。

また、日本文化を紹介する活動にも取り組んでおり、学校や公園などで書道、折り紙、日本語紹介などを行っています。現地の人々に日本に親しみを感じてもらえたらうれしく思います。日本では当たり前のように受けられる教育のありがたさをあらためて実感しながら、ここでの経験を将来、日本の教育に還元していきたいと考えています。



学習支援



マヤのお祭り



独立記念日

県だより

News from Prefecture

外国籍人材を活用したダイバーシティ教育に取り組んでいます

茨城県県民生活環境部多様性社会推進課 マシチェンコ・ソフィア

県では、地域におけるダイバーシティ&インクルージョンの推進を図ることを目的として、ダイバーシティ推進センター職員による出前講座「ぼらりす教室」を行っています。県内の学校などの教育機関や行政機関、企業などに職員を派遣し、多様性への理解を深めるための講義や授業を行っています。

今年度は、私も出前講座の講師の一人を務めています。ウクライナ出身の私は、今年5月に多様性社会推進課の事務支援員として採用され、この講座にも携わることとなりました。

学校の児童生徒を対象とした講座では、ウクライナの文化や生活を紹介し、クイズや講話、質疑応答を通じて異文化に親しみをもってもらえる機会を提供しています。また、リクエストがある場合には、一緒に給食をとりながら会話し、国籍や外見の違いを超えた「人としてのつながり」を実感してもらえよう努めています。外国籍人材との直接的な対話の場が、多様な文化や考え方を自然に受け入れるきっかけとなると考えています。

大人を対象とした講座では、文化や生活の紹介に加えて、ジェンダー平等や年齢等による無意識の思い込み、戦争を含むウクライナの現状についてもお話しています。参加者からの率直な質問にも誠実に応じることで、普段なかなか触れられないテーマについても、認識を深めていただけるように努めています。このような双方向の対話が、県民の皆様にとって、国際社会についての関心を高めるとともに、外国籍人材の活躍を身近に感じることが出来る機会になればと考えています。

「ぼらりす教室」は、令和7年7月から令和8年1月末まで実施しています。事業の詳細や派遣申請については、ダイバーシティ推進センター「ぼらりす」のホームページをご覧ください。



講座の様子



児童との交流の様子

for you...

外国人のための休日無料相談会

「外国人のための休日無料専門家相談会」は、複雑な問題を抱える外国人等が、母国語で専門家に相談できる相談会で、毎年県内各地で開催しています。

今年度は、下記のとおり開催します。日本語だけではなく下記10言語での通訳も可能ですので、県内在住の外国人で、専門家のアドバイスが必要な方、母国語で相談したい方はぜひこの機会をご利用ください。

1.【外国人のための一日無料専門家相談IN筑西】

日時 令和7年9月28日(日) 10:00～15:00(受付14:30まで)
場所 筑西市役所(筑西市丙360)

2.【外国人のための一日無料専門家相談IN土浦】

日時 令和7年10月19日(日) 10:00～15:00(受付14:30まで)
場所 土浦市役所(土浦市大和町9-1)

3.【外国人のための一日無料専門家相談IN坂東】

日時 令和7年12月14日(日) 10:00～15:00(受付14:30まで)
場所 坂東市役所(坂東市岩井4365番地)

4.【外国人のための一日無料専門家相談IN古河】

日時 令和8年1月25日(日) 10:00～15:00(受付14:30まで)
場所 古河市山水はなももプラザ(古河市横山町1-2-20)

5.【外国人のための一日無料専門家相談IN神栖】

日時 令和8年2月8日(日) 10:00～15:00(受付14:30まで)
場所 かみす防災アリーナ(神栖市木崎1219-7)

相談担当：茨城県弁護士会所属弁護士、東京出入国管理局職員、行政書士、社会保険労務士、開催自治体職員、外国人相談センター相談員(予定)

相談内容：在留資格、労働問題、結婚、税金、保険、その他生活全般

※相談無料、秘密厳守、通訳付き

対応言語：日本語、英語、中国語、タイ語、タガログ語、ポルトガル語、韓国語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語、シンハラ語
※その他の言語は翻訳機等で対応

問合せ先 (公財)茨城県国際交流協会 外国人相談センター
TEL 029-244-3811 (当日の連絡先：070-4002-2547)

賛助会員を募集しています！

当協会では、茨城県に在住する外国人の皆様が安心して生活できるよう、多言語による相談事業や情報提供などを実施し、外国人の皆様にも住みよい地域づくりに努めています。また、より多くの県民の皆様が外国の方々と交流し相互理解を深める機会を提供するために、留学生や在住外国人の方々、交流団体の皆様と連携し、様々な交流事業も展開しています。

皆様からのご支援のもとに、さらに充実した活動を続けて参りたいと存じますので、賛助会員へご加入いただき、お力添えください。

会員になると、機関紙「ふれあい茨城」の送付、各種イベント等情報の提供、協会施設の優先利用、提携旅行社の割引などの特典があります。

また、賛助会員は、公益法人への寄付として申告により所得税や法人税の優遇措置の適用を受けることができます。

皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

賛助会費	団体会員	1口 10,000円(1口以上)
	個人会員	1口 3,000円(1口以上)

※賛助会特典、税金の優遇措置の詳細については、当協会HPをご覧ください。



JICA海外協力隊2025年度秋募集のお知らせ

JICA海外協力隊2025年度の秋募集を9月12日(金)～10月14日(火)の日程で行います。

募集期間中は水戸市と土浦市にて募集説明会を開催予定です↓

●9月14日(日)10時～16時

水戸市国際交流協会(水戸市)

●9月20日(土)14時半～16時半

茨城県県南生涯学習センター(土浦市)

JICA海外協力隊の説明会を開催します！海外や国際協力、ボランティア活動に興味のある方ならどなたでもご参加いただけます。



詳細はこちら▶



問合せ先 JICA茨城デスク((公財)茨城県国際交流協会内)
国際協力推進員 勝村
TEL 029-241-1611/メール jicadpd-desk-ibaraken@jica.go.jp

バナー広告募集中！

当協会ホームページのトップページにバナー広告を掲載することができます。国際交流や多文化共生等に興味がある方や、生活情報などを求める外国籍の方々に多く閲覧されている当協会のホームページを通して、あなたの会社や事業をPRしてみませんか。

なお、バナー広告料収入は、協会の様々な事業に有意義に使わせていただきます。



●令和7年度 団体賛助会員(令和7年7月末現在)※敬称略

イガラシ綜業株式会社
石岡商工会議所
「茨城アジア教育基金」を支える会
いばらき印刷株式会社
茨城グローブシップ株式会社
一般社団法人茨城県医師会
公益財団法人茨城県開発公社
茨城県火災共済協同組合
茨城県観光物産協会
茨城県行政書士会
一般社団法人茨城県経営者協会
一般財団法人茨城県建設技術公社
茨城県市長会
社会福祉法人茨城県社会福祉協議会
茨城県商工会議所連合会
茨城県商工会連合会
茨城県信用組合
茨城県信用保証協会
茨城県青年海外協力隊を育てる会
茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ(WYCC)
茨城県中小企業団体中央会
茨城県町村会
茨城県日中友好協会
茨城交通株式会社
株式会社茨城ポートオーソリティ
茨城町国際交流協会
株式会社茨城読売IS
鹿島埠頭株式会社
鹿島臨海鉄道株式会社
株式会社要建設
Global Exchange Education
株式会社光和印刷
古河市国際交流協会
国際ソロプチミストつくば
JA茨城県中央会

株式会社常陽銀行
常陽トータルサービス株式会社
昭和建設株式会社
鈴縫工業株式会社
関商事株式会社
株式会社高野高速印刷
社会医療法人 達生堂 城西病院
筑西市国際友好協会
中国武術茨城推進協会
チョッサラ
株式会社筑波銀行
株式会社つくば研究支援センター
電機連合茨城地方協議会
那珂市国際交流協会
日本原子力発電株式会社東海事業本部地域共生部
日本語学校つくばスマイル
日本語ゆめラボ
日本労働組合総連合会茨城県連合会
ヌーベルアージュ株式会社
ヌーベルキャリア株式会社
ヌーベルメディア株式会社
ハンサラン
常陸大宮市国際交流協会
日立商工会議所
広沢商事株式会社
フレンドリーあんず
フレンドリージャパンワールド
水戸市原国際交流ふれあいの会
水戸商工会議所
メサフレンドシップ
株式会社ライフサポート山野
株式会社ルックアウト
国際交流おもてなし「瑠璃の会」

計68団体

皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。



ネットワーク会議を開催しました



ネットワーク会議

7月24日(木)、県内の市町村、市町村国際交流協会、民間国際交流・協力団体を対象に、令和7年度国際交流・協力ネットワーク会議が対面形式で開催され、総勢110名の方々が参加しました。全体会基調講演では、都留文科大学教養学部比較

文化学科専任講師の上野貴彦氏が「目的ではなく手段としての共生へ～インターカルチュラル・シティの視点から考える多様性・平等・交流の地域戦略～」と題して講演しました。外国人住民との間に生じる誤解や不安を解消し、前向きな交流を生み出す「反うわさ戦略」、そして多様性を認め合い地域の豊かさにつなげる間文化主義の考え方を通して共生を進めるための地域戦略についてお話いただきました。後半は二つの意見交換会に分かれ、事例発表、ワークショップ、グループディスカッションが行われました。第1意見交換会では、茨城大学准教授の瀬尾匡輝氏の進行のもと、イスラム教徒のゲストスピーカーによる発表の後、多様な宗教や文化的背景を持つ人々と共に地域社会を築いていくための支援の在り方について、4つのテーマに分かれて意見交換を行いました。第2意見交換会では、基調講演を務めた上野氏の進行のもと、地域社会でよく耳にする外国人住民に関する「うわさ」を分類し、その背景について考えるワークショップが行われました。この会議が参加した皆さんの今後の活動やネットワークづくりの良い機会となれば幸いです。

2025年度春期世界文化セミナーを実施しました

4月から7月にかけて、アイルランドやブラジル、インドネシアなど、様々な国籍の講師を8名招き、世界文化セミナーを実施しました。セミナーでは、母国の文化の話を英語で聞きながら、質疑応答を行った後、講師がテーマを決めたディベートを行うことで、異文化理解を深めました。対面コース(隔週金曜日)とオンデマンドコースを合わせて、合計39名と今回も多くの方々にご参加いただきました。今回特に関心が高かったのは、「カナダのフランス語vsフランスのフランス語」という発表です。先住民族の存在や、フランス人とイギリス人による北米での支配をめぐる争いを背景に生まれたケベック人の複雑なアイデンティティ、そして英語圏に囲まれた中で独自に変化してきたケベックのフランス語について話しました。秋期世界文化セミナーは10月から2月にかけて実施予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



春期世界文化セミナー

編集・発行



(公財)茨城県国際交流協会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町後川745 ザ・ヒロサワ・シティ会館分館2F
TEL:029-241-1611 FAX:029-241-7611
ホームページ <http://www.ia-ibaraki.or.jp>
メールアドレス ia@ia-ibaraki.or.jp

第1回クエスト茨城留学生研修を実施しました



アQUALワールド茨城県大洗水族館にて

夏のクエスト茨城留学生研修を、7月12日(土)に実施しました。本ツアーは、留学生が茨城県への理解を深め、愛着を持って留学生活を送ることを目的としており、16か国32名が参加しました。今回は、農産物直売所とアQUALワールド茨城県大洗水族館を訪れました。直売所では、食の宝庫茨城県産の農産物を間近に、その魅力や農業について理解を深めました。直売の仕組みなどの説明を受けた後、お弁当を食べ、買い物も楽しみました。留学生たちは、綺麗に包装された野菜や果物を手に取り、「これは何だろう?」と語り合う姿も見られました。「新鮮な野菜や特産品が並び、地元ならではの雰囲気を感じられた」「直売所では、農家から直接仕入れた農産物を扱っていることが分かった」といった感想が寄せられました。水族館では、日本トップクラスの大型展示を楽しみました。水族館を初めて訪れた留学生も数名おり、魅力あふれる海洋生物の展示に目を輝かせていました。また、人気のイルカとアシカのショーでは、「とても面白かった」と喜びの声が上がりました。「海辺にあり、美しい景色が広がっていて、今まで見たことのない海の生き物をたくさん見ることができた」「地域ならではの魅力や文化、そして海洋生物の保護に対する深い思いやりを強く感じ、とても印象的だった」などの感想が寄せられました。今回のツアーを通して、留学生の皆さんには、茨城の新たな魅力を発見し茨城に対する理解を深めてもらうことができました。

地域日本語教育



関係者連絡会議(一般)

日本語ボランティア支援者を養成する目的で「太子町・河内町のための日本語サポートセミナー・ビギナーコース」を7月中旬から8月頭にかけて全5回オンラインで開催しました。相互理解、多文化共生の地域づくりを目指す日本語支援について15名が受講しました。県の地域日本語教育の体制づくり事業では、事業の普及を図るための関係者連絡会議を8月頭に市町村職員向けにオンラインで、8月末に一般市民向けに対面で開催しました。それぞれ参加者は15名、24名でした。地域で活躍する日本語教師の人材養成を行うため、地域日本語教師ならびに地域日本語教育コーディネーター研修の受講者を募集しました。地域日本語教師コース9名、地域日本語教育コーディネーターコース6名が8月末から受講を開始しました。日本語に通じない「生活者としての外国人」への日本語教育として、日本語ファーストステップコースを開講しました。フィリピン、バングラデシュなど14名が8月末から日本語教師によるオンライン授業の受講を開始しました。

「ミャンマー地震被災者のため義援金募集」の結果について

(公財)茨城県国際交流協会は、NGO茨城の会とともに、ミャンマー地震による被災者を支援するための義援金を募集したところ、多くの皆様から義援金をお預かりすることができました。援助活動を実施している団体等に、被災地での活動の有無や活動内容及び今後の資金需要などを調査のうえ検討した結果、下記の団体に寄付させていただきました。募金にご協力をいただきました多くの皆様方に厚く御礼申し上げます。

■義援金額	654,293円
■寄付先	日本赤十字社茨城県支部 327,146円
	(特活)難民を助ける会 327,147円